

## 令和2年度

### 第2回 習志野市立秋津小学校 学校運営協議会

令和2年11月26日(木)

#### 1 会長挨拶

会長退任・・・伊藤知通

#### 2 学校長挨拶

#### 3 報告

(1) 令和2年度 第1回学校運営協議会議事録・・・(中止)

(2) 令和2年度 第1回～7回パートナー会議の内容・・・資料1

教頭：資料に沿って説明

(3) 2学期いじめアンケート結果・・・・・・・・・・資料2(別添)

生徒指導主任：相談件数が少なくなっている。いじめ解消フローチャートを作成し、お知らせとともに保護者に配付した。いじめは犯罪だと知らせるために、重大事案については、警察と協力するということを記載した。1学期は、コロナの影響もあって少なかった。2学期になって交流も増えてきて、それに伴いいじめも増えた。事案としては、悪口や暴力的な内容、また新たに「習い事」でのことがあった。校内での件については担任を中心として解決に向けているが、習い事に関しては他校とのかかわりもあるので、対応が難しく、対応方法を考えていきたい。保護者へ知らせている。

コロナでのいじめはなかった。重大事案はなかったが、1学期からの継続があった。いじめの目撃も2学期になって増加していた。いじめについて「わからない」と答えた児童も多かった。人間関係の悩みを書いている児童もいたので、丁寧に話を聞き、改善していく。人間関係の悩みについては、いじめアンケートのほかに学校生活アンケートもあるので、聞き取りしていきたい。

小関：習い事は、校内ではなく、校外？→校外。児童の申告で発覚。

スクールカウンセラーはどのように対応？→児童や、保護者などが1対1で話すことがよくある。2週間に1度来るので、職員も児童との関わり方について相談したり、学校での様子を伝えたりする。

吉田：コロナで学期の始まりも異常な状態であったことに起因するようないじめはあったのか。

校長：児童は外出自粛でストレスはたまっていただろう。登校するようになって、マスクやソーシャルディスタンスの影響もあって児童間のいじめは少なかった。

吉田：コロナでのストレスはどうだったのか。

教頭：分散登校だったが、そのおかげで教員が昇降口に迎えに行った。それで、児童のあいさつがよくなった。児童も少ないため、閉塞感もなく広い校舎や校庭でのびのびと過ごしている。コロナのストレスが起因となったいじめについてはわからないが、いじめは解消したと思わず引き続き教職員は注意をしてみている。運動会やマラソン大会などの行事ではどの児童もとても楽しそうに参加している。

吉田：今まで児童に与えすぎていたのではないか。コロナで見えてきたものがあるのではないだろうか。それを生かしていくことが重要であろう。

校長：行事を削減したことで良かったことも多かったので、来年度からの行事も考えたい。

芳地：家庭側からの児童虐待について、秋津小では起こっていないのか。特にコロナでは休校で保護者も児童もストレスを感じただろう。それが虐待になっていないか。それを知るためのアンケートはないのか。

教頭：家庭に持ち帰るアンケートなので難しい。地域と協力して虐待の疑われる家庭を観察しているが、コロナに起因するものは今のところはない。

生徒指導主任：学校生活アンケートに家庭での様子を答える欄がある。しかし、そこに書けるのかは課題。

#### (4) 秋津小学校実践紹介・・・・・・・・・・・・・資料3

教頭：少人数指導が配置になった。ベテランの方で助かっている。また、外国語専科も配置になっている。学習サポーターが配置になった。授業だけではなく、採点やチェック、教材作成などもしてくれるので教員の負担軽減になっている。スクールサポートスタッフも配置になった。指導以外の業務をしてもらえるので、業務改善が進み、教職員の負担軽減になっている。

指導面については、若年層が多いので研修も行っている。一年を通して、数回行っている。ほかに終礼後に10分程度の悩みを共有するなどの時間、秋津の伝統の掃除の仕方の清掃研修、体育の実技研修なども行っている。

研究については、引き続き体育科を行っている。ソーシャルディスタンスを保つために輪を使っている。

入学を祝う会では、全校児童が入ってもソーシャルディスタンスを保って行えた。保護者は参加できなかったが全校児童で祝えた。保護者は写真が撮れるように入学式の看板を一週間出しておいた。動画をとりDVDにも残した。

授業参観を行った。懇談会は行えなかったが学習の様子を見てもらえた。

修学旅行は日帰りになった。6年生はとても楽しそうに参加できた。

運動会では台風の影響もあり、火曜日に延期した。日程は半日で行えるものだったが、どの児童も達成感を味わえたのではないだろうか。ソーシャルディスタンスの工夫として、ダンスや応援の仕方を変更した。

ンスや応援の仕方を変更した。

オリンピック・パラリンピック教育として、ブラインドサッカーの選手から話を聞くことができた。

陸上大会は、陸上記録会として香澄小とともにいった。壮行会も行えた。全校児童に応援され、良い記録の出た児童が多かった。

40周年記念式典では、保護者を入れ替え制で行った。児童の席で見てもらった。どの児童もよくがんばり、良い式となった。

マラソン大会では、保護者の方の協力を得て、滞りなく行えた。

今後は、授業参観、6年生を送る会、卒業式などを行う予定。

吉田：指導力は、年齢層によってどうなのか。

杉山：若年層、中間層、ベテラン層と3つの層に分けたとき、ベテラン層は14パーセント程度。秋津小の規模でいえば、ベテラン層は1人程度であろう。年齢層が若返っているのは秋津に限ったことではない。

吉田：少人数指導のベテラン層は、どこに入っているのか。若年層のみなのか。

教頭：少人数指導は、若年層の補助が目的ではない。児童の学力向上が目的。しかし、ベテラン層であるため、若年層に気を使ってくれている。初任者には、初任者指導という者がつく。2年目からは初任者指導がつかないので、校内で教務主任を中心に若年層研修を行っている。ほかに、校内で授業の見合いの週間を行っている。その期間は自由にいろいろな教室の授業を見ている。担任を交換しての交換授業も学年をまたいで行っている。

吉田：年齢層の違いによる指導力の違いを、教育委員会としてもどうしているのか。

杉山：教員の育成としては、習志野市教育委員会のみでできることと、そうでないこともある。学校の要望で、少人数などが配置になることがある。ただ、その要望は必ず通るわけではない。市だけで単独で人材を集めることなどは難しい。若年だから悪いというわけではない、熱意などが十分であれば。市は県などと協力して、要望などには答えていきたい。

伊坂：学習サポーターは正しくは学習指導員なので、その名称を入れるべき。学習指導員とスクールサポートスタッフは、県の非常勤職員なのでそういった説明も必要か。それぞれの目的も違うので、そこは明確にしておく。

杉山：教員免許の有無によって、A/Bなどの区分がある。ほかに学生などのボランティアもある。

伊坂：教員免許によって教室での学習指導などもできるのだから有効な活用を。

杉山：来年度以降に関しては未定。

#### 4 協議事項

##### (1) 「学校関係者評価の実施と教育活動の改善」について・・・資料4

###### 学校関係者評価実施について

教頭：資料に沿って説明

学校評価（児童・教職員・地域ボランティア）集計結果から（別添）

## 授業参観保護者アンケート結果

### 令和3年度教育課程会議について

教務主任：教育課程教職員アンケートは例年よりも1か月ほど遅く実施している。コロナの影響で行事などもずれこんでいるため。コロナが来年度に収まるとは考えづらいので、アンケート結果のうち重要事項は太字としている。結果から来年度の行事などを考えていきたい。

校長：今年度で大きく変わったのは、通知表。例年は3学期制で3回出していたのだが、今学期は学習の始まりが遅かったため、夏休み前には通知表を出さず、10月末に出した。冬休み前には出さず、年度末に出す。年2回は、市内で統一して行っている。

伊藤：モジュールは引き続き行っている？

教務主任：外国語はモジュールではなく、国語や算数などを行っている。

## 5 その他

### ○不審者情報について

加藤：不審者情報が遅いという意見をいただいた。令和2年度は不審者情報のメール連絡の基準を引き上げた。市内全域に関し、信憑性がある場合に発信する。その確認などにより遅くなってしまう。被害者から連絡が入ると、教育員会を通して、学校、学童、警察、公民館などに送っている。情報が入るのが夜であったり、開庁時間外であったり限界がある。緊急の場合には、千葉県警察のホームページを確認するのが良い。県警のホームページでは速報と、精巧な地図がある。そちらの活用も。連絡メールが遅れるというのは、逆に言えばそこまでの緊急性がないということ。

### ○第3回学校運営協議会の開催日について・・・・・・2月25日（木）